

## ◎SSH産学連携講座 『機械学習 - AI のホントのところ - 』 共催:日経サイエンス

10月21日(月)放課後、日経サイエンス様との共催でSSH産学連携講座を開催しました。講師は、セコム株式会社 IS 研究所、ビジョンインテリジェンスディビジョン、アトリビュート・アナリシスグループ 糸賀 健 先生です。講演テーマは、『機械学習 -AI のホントのところ-』と題して、今回、徹底的にAIについて学んでもらい、将来の様々な分野で活用してもらうための学習の機会となればと企画致しました。これからの時代、技術革新に向けて、益々当たり前のように利用されるAIの中核となる技術が、機械学習とのことです。実際AIでできることはどのようなことなのか、AIの現状や将来像とともに「機械学習」の基本について話をさせて頂きました。当日は、質疑応答の時間をしっかりと確保して、多くの参加生徒達から、様々の質問が出されました。

信頼される安心を、社会へ。



## ◎ハーバード大学地球惑星科学科 Miaki Ishii (石井水晶) 先生来校



ハーバード大学地球惑星科学科の Miaki Ishii (石井水晶) 先生に本校を訪問して頂きました。5年前に、SSH海外研修として米国ボストン、ハーバード大学石井水晶先生の研究室を訪問して以来の再会となりました。石井先生は、『地震計記録のデジタル化プロジェクト』を中心となって進めておられます。本校も関係の生徒達が取組んでおり、すでにそのデジタル化されたファイルが、高校名・氏名とともに、ハーバード大学のホームページに公開されています。当日は本校の星陵祭(文化祭)で、5年前に石井先生を訪問した生徒達との再会、デジタル化プロジェクトに取り組んでいる在校生達にもクラス劇の間に、お会いすることが出来ました。是非、このプロジェクトの取組みが全国の高等学校に更に広がって、地球温暖化、その他様々な分野の研究に役立ってもらい、人類の将来に貢献していただきたいと願っています。

### ハーバード大学地球惑星科学科 【Miaki Ishii (石井水晶) 先生のホームページより紹介】

地震計で記録された最初の地震は1889年4月17日にドイツで観測された日本の地震です。それ以降、1980年後半まで地震計の記録は紙などのアナログ媒体で残されています。この100年以上におよぶ記録は地震、火山、地球温暖化、等様々な研究にとって非常に貴重なデータであるにも関わらず、アナログのままでは解析できません。その上、紙などの劣化も進んでいます。保管場所の問題などもあり、このままでは100年以上の記録が失われてしまう可能性があります。膨大なデータのデジタル化に向けて2018年7月より学校改革フォーラム(代表:盛永俊弘)との共同プロジェクトを立ち上げました。日本の高校生にハーバード大学で開発されたDigitSeisソフトウェアを使ってデジタル化を手伝ってもらおう試みです。このプロジェクトを通して、地震学や自然科学をより身近に感じてもらえるよう解説や交流なども行なっていきます。

## ◎SSH同窓会《すばる会》【星陵祭(文化祭)での講演会】

今年もSSH同窓会《すばる会》の卒業生が、星陵祭9月21日～22日の二日間、理科ホールにおいて、ポスター展示と講演会を開催しました。今年、《すばる会：8期生》の卒業生が中心となって、いろいろと準備を進めてもらいました。



現在の大学、大学院、社会人としての生活、高校時代のSSH活動が、自分の将来に如何につながっているか等、見学された中学生や一般の方々に話をしてもらいました。東京大学3年生のT君は、「One earth guardians…地球は2つない」、慶応大学のH君は、「将来の夢の見つけ方～The way of finding your dreams ～Society 5.0」と題し、大学で学んできた勉強や自分の考えを発表しました。日比谷高校の星陵祭(文化祭)は、1年生から



3年生まで全クラスが、劇に取組みますが、その中で、1階の理科ホールでは、こうしたSSH卒業生による取組みが毎年、行われています。高校時代に体験したSSHの活動が、その後の進路にどのように関わってきたのか、直接話を聞いたり、知ることが出来る貴重な機会となっています。

## ◎第2回【SSH課題研究Ⅰ】説明会《3年生の発表とパネルディスカッション》

11月5日の放課後、1年生全員参加の第2回【SSH課題研究Ⅰ】説明会を星陵会館において開催しました。今回は、研究レポートの作成の仕方など、研究活動



の後半に向けての説明会でした。また、昨年度、本校の2年次「理数探究Ⅰ」を履修したS君、及び、今年継続して「理数探究Ⅱ」(前期終了科目)を履修したH君2人の3年生が、その研究成果を発表しました。その後、パネルディスカッションでは、「研究テーマの見つけ方」「研究活動の苦労」「うまくいかなかった事やそれを如何に克服したのか」「研究活動の意義」等について、会場の1年生と有意義で、活発な質疑応答を交えながらディスカッションが進められました。

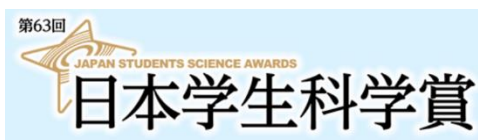
## ◎JSEC高校生科学技術チャレンジ & 日本学生科学賞



第17回  
高校生科学技術  
チャレンジ

JSEC 科学・技術・数学分野で  
ジェイセック 全国の高校生・高専生と競うコンテスト

朝日新聞主催の第17回JSEC高校生科学技術チャレンジにおいては、本校の『理数探究Ⅰ』の授業で、



高大連携のもと研究活動を行った本校2年女子生徒による《化学分野》研究作品が、全国から応募された予備審査の結果、【一次審査に進出する71研究作品の一つ】に選ばれました。また、読売新聞主催の第63回日本学生科学賞東京都大会において、本校の『理数探究Ⅰ・Ⅱ』の授業で研究活動を行なった3年男子生徒の《物理分野》研究作品が、【最優秀賞】を受賞しました。